

吉野復興大臣大阪府訪問ぶら下がり会見録
(平成29年6月12日(月)13:10～13:20 於)大阪国際会議場)

1. 発言要旨

「復興フォーラム in 大阪」を昨日と今日の2日間に渡って、復興庁として開催をさせていただきました。このフォーラムを開催した理由は、2つの大きな風が被災地に吹いています。ひとつは「風化」であります。もうひとつは「風評」という風であります。この2つの風をある意味で断ち切るために、特に、この阪神・淡路大震災の経験を持つ、関西地区、大阪地区において復興フォーラムを開催し、この風化と風評、これをほんとに払拭していきたいと、このような思いで開催をさせていただきました。

本日は、今会場でお話されております登壇者の室崎先生、また福島県いわき市出身の開沼先生と懇談をさせていただきました。室崎先生は、防災・減災のプロとして、いかに災害を乗り切るかというご尽力をいただいた方です。実は3年前にひょうご震災記念21世紀研究機構というひとつの研究機構がありまして、そこに復興庁として震災後3年が経った後の東日本大地震を踏まえて、どういう復興があるべきかという委託をして研究をしていただきました。そしてそこで15章に渡る立派な提言をいただきました。私もそれを読ませていただきまして、ほんとに今、その通りに行なっていればほんとに素晴らしい復興になったんだなという思いを強くしているところです。素晴らしい提言をいただきました。五百旗頭先生が座長という形で優秀な学者、先生方、そして何十回も現場に入って意見を聞いてまとめたところです。これからそれをベースにしながらも、もう6年が経ち7年目ですけど、ステージステージでまた違いますのでそろそろ少し見直しをかけてみたいなとこんな思いをしているところです。開沼先生は福島県の生まれで私と同じいわき市の生まれですけど、全部事実のデータをもとに福島県というものを分析している方のございまして、先生方で、この震災を学問的に捉えていく人たちが、阪神・淡路の場合は、神戸大学を中心としてたくさんいたのですが、今は少なくなってきたというお話も伺いましたので、そう意味では、これを学問として捉えていくかというところも大事な問題かなというところで開沼先生のお話を聞かせていただきました。

他には、午前中ですがボランティアやインターンシップを経験され、ほんとに現場で体験をなさり、関西などから出向いて現地に入ってきてフェイス・トゥー・フェイスで接していただいた、そういう生のお話も聞くことができました。ほんとに頭が下がる思いのございます。そうやって関西の皆さま方から、私達被災地の者は、元気を

いただいて、その元気で復興を必ず成し遂げると、そういう決意を新たにしたところです。

また、関西経済連合会を訪問いたしました。まず今までの復興の取組に対して御礼を申し上げてきました。そして福島県産品、また、岩手、宮城の水産品、これが工場はもとに戻ったのですけれども、売れ行きが思わしくありません。スーパーの棚が工場を復旧している間に他の方々に棚を取られてしまいましたので、売れ行きが思うようにいいません。でも、関西地区であれば東北の水産物は販路回復ということではなくて、新規販路開拓という形でマーケットが得られるのかなという形で経済界の方にお問い合わせしてきたところです。また、被災地の観光、特にインバウンドは、全国平均では2.5倍の外国の方々が来ております。東北を平均すると1.2倍なんです。福島県は83%くらいなんですけど、まだまだ全国の伸び率からすると外国の方々に東北に来てもらってみたいというところが大事でございますので、そんなところの願いもして来たところです。最後に企業立地です。かなり企業立地については立派な補助制度がございますので、こういう補助制度も使いながら、多くの関西の企業が福島県、また被災地に立地していただくこともお願いしたところです。以上です。

2. 質疑応答

(問) 福島と東京であれば近いかと思うのですが、やはり関西となると何百キロも離れています。そこで距離とともに心的な部分、情報もそうですが離れる部分があると思いますが、そういった中で、今回この場所で、こういったフォーラムをされる意義というか、そういったお気持ちをお聞かせ願えますか。

(答) まさに今おっしゃったとおり、距離的にかなり離れていますので、まさにその距離を短くする、縮めるという意味で大きな成果が上がったと思っています。例えば、関西経済連合会の方たちとのお話の中で、牡蠣、オイスターの養殖で、津波でヘドロがきれいになったんです。そして、前は100あった(牡蠣養殖用の)イカダが今はまだ70くらいしか回復していません。その結果、反対に養殖の牡蠣は大きくて美味しくなった。こういうお話をしたら、知らなかったというお話ですので、まさに距離感を縮めるという意味では、昨日、今日のこのフォーラムの意味はあるのかなと思っています。

(以 上)